

2026-27 年度 国際ロータリー第 2570 地区活動方針

『ロータリー活動に誇りを！』



国際ロータリー第 2570 地区
2026-27 年度 ガバナー
原島 生慈（秩父 RC）



世界のロータリアンと接するたび、その漲る活力に圧倒されます。

彼らが生き活きとしている理由。それは、日々の小さな奉仕から大きなプロジェクトまで、あらゆる活動に確固たる「誇り」を持っているからです。

昨今、会員減少や例会の形骸化といったネガティブな課題が議論の主役になりがちです。しかし、本来のロータリーはそうではありません。私たちのいかなる活動も、必ず社会のどこかで誰かの役に立ち、「持続可能なインパクト」を世界にもたらす価値ある歩みです。

会長の皆様をお願いしたいのは、まず自らがその価値を再認識し、誇りを持って行動することです。課題を憂うだけでなく、ロータリーの可能性を信じ、その素晴らしさを背中でも語ってください。

皆様が誇りを持って放つ輝きこそが、クラブの活力を呼び覚まし、次世代へと続く変化の力となります。共に、誇り高きロータリーの未来を切り拓いていきましょう。

今年度の RI 会長メッセージは「UNITE FOR GOOD」、次年度は「CREATE LASTING IMPACT」。

表現は違っても、これは別々のメッセージではないと考えます。むしろ「同じ方向を向いた連続したメッセージ」と捉えるべきだと思います。UNITE（団結）は目的ではなく、手段です。力を合わせることで、より大きな「良いこと」を行い、その成果を“未来に残る価値”へと昇華させていく。その到達点こそが IMPACT ではないでしょうか。

つながりが信頼を生み、歓迎の姿勢が参加を生み、行動が変化を生むのです。ロータリーの価値は、そこで生まれる「持続可能なインパクト」にあるのでしょうか。ババロア会長エレクトの発信は、まさにその一点に集約されていると感じました。

RI 会長メッセージの中で、変化とインパクトは異なる。変化は始まりであり、インパクトは持続しなければならないものであるという話が象徴的でした。

「変化」と「インパクト」は同じようで全く異なり、変化は“きっかけ”、インパクトは“未来に残る結果”なのだと、私も強く感じ、私たちが取り組む奉仕や会員増強も、実施した瞬間の成果で終わらせず、地域の中で根付き、継続し、次の世代へつながっていく形にしてこそ意味があります。変化に満足するのではなく、その変化を積み重ねて「持続可能なインパクト」に高めていく…。この視点を常に忘れずに行動していきたいと思います。

2026-27 年度は、2024-25 年度五十嵐年度から坂口（相原）年度そして原島年度の 3-year Rolling Goals の最終年度です。改めて RI は継続性の重要性を強調します。私の年度で終わるのではなく、次の五十嵐年度、齋藤年度へと継続していく事も大切です。また、各クラブが 2024-25 年度に設定した「3 年後、自分たちのクラブがどうなっていたいか」という目標設定を達成するために地区ガバナーとして、公式訪問等で各クラブの会員の皆様と一緒に考えたいと思います。

2026-27 年度 第 2570 地区活動方針

各委員会活動の前提：地区はクラブに為に

地区の目的は、ロータリークラブを強化し支援することである。地区が特定の奉仕プロジェクトやプログラムを完遂することは必須とされていないこと（章典 17.010.1）を十分に理解し、活動する。

- **会員増強委員会（仲間への誇り）**「最高の仲間と、選ばれた誇りを分かち合う」
「数」を追うだけでなく、ロータリーの理念を正しく伝え、入会したことがステータスであり喜びであると感じてもらう。
- **公共イメージ委員会（認知への誇り）**「魅せるロータリー、憧れられる誇り」
ロータリーのバッジをつけて街を歩くのが誇らくなるよう、活動を洗練された形で外部へ発信する。
- **社会奉仕委員会**
今年度は「子供の貧困」を重点課題とし、社会奉仕委員会の立案による地区活動を年 2 回実施して欲しいと思います。各グループの補佐は、全会員が当事者としてこの問題に向き合い、参加できるよう力強く呼びかけてください。全員参加で知恵を絞り、行動することで、地域に「持続可能なインパクト」をもたらします。真摯な奉仕を通じてロータリアンの「誇り」を再認識し、全地区一丸となって子供たちの未来を支えましょう。
- **国際奉仕委員会**
ポリオ根絶活動、米山記念奨学会との連携、青少年交換への協力等を踏まえた新たな目標づくりをお願いします。
- **青少年プログラム委員会、米山記念奨学記念委員会**
今年度の活動を継続発展させて、会員への周知に努めていただきたいと思います。
- **ロータリー財団委員会（実績への誇り）**
寄付やプロジェクトの結果を数字だけで終わらせず、「これだけの笑顔を作った」というストーリーの可視化ができるようにしていただきたいと思います。
- **職業奉仕委員会**
ロータリーの根幹をなす理念を各クラブに浸透させる。